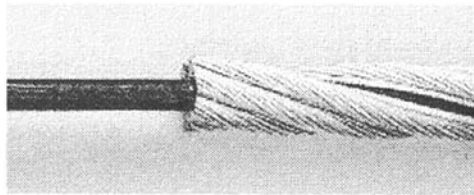


檜山工業がスキー事業強化

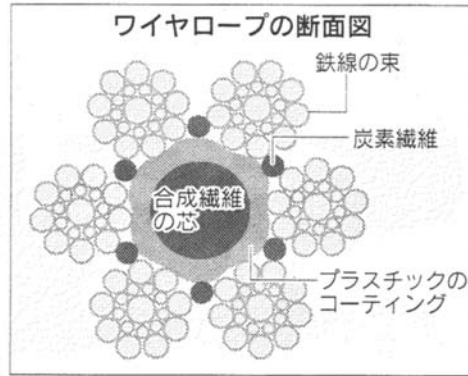
リフト用ワイヤ販売

オーストリア社と 総代理店契約締結 安価で長持ち

長野県佐久市に生産拠点を持つ産業機器メーカーの檜山工業(東京・杉並、檜山宏社長)はスキー事業部門を強化する。オーストリアのワイヤロープ製造会社と総代理店契約を締結、スキーリフトの交換用ワイヤロープを国内で販売する。国内でリフト用ワイヤロープは大手の寡占状態が続いており、安価で長期間利用できる製品への需要は高いとみている。



鉄線がこすれにくい構造のロープで、寿命が長くなる



提携したオーストリアのトエフェルバーガー社は、リフトやロープウェイなど向けワイヤロープ製造を専門的に手がけている。檜山工業が販売するのは、合成繊維をプラスチックで覆った芯(しん)を採用。芯の周りに鉄線の束と炭素繊維をより合わせることで、こすれて断線しにくい構造にした。

摩擦が少ないため断線しにくく、形くずれもおこしにくい。ワイヤロープの伸びを補正するための、切り詰め補修費などの費用も軽減できるといふ。「国内メーカーの製品よりも五年程度長い十五〜二十年程度の耐用年数がある」(スキービジネス事業部)としている。長さ千以上の四人乗りのリフトで約八百万円と、国内メーカーの製品より一割程度安いという。長野県や近郊のリフト運営会社に売り込む。

檜山工業は半導体製造などに使う真空ポンプが主力だが、降雪機などの製造・販売も手掛けている。スキー事業部門は二〇〇五年度、一割増の売上高十億円を目指す。